

自分事

私が小学5年生のときでした。家が同じ方向だったので、いつも一緒に帰る友達がありました。あることをきっかけに、その友達へのいじめが始まりました。そのとき、私は学級委員長でした。これはまずいなとは思っていました。しかし、何もすることはできませんでした。相変わらず、その友達とは一緒に帰っていました。学校でいじめられたあとに、私と帰っていたわけです。その友達は、どんな気持ちだったのでしょうか。

中学校に入りました。その中学校は、3つの小学校から生徒が入学してくる学校でした。1学期に最初の定期テストがありました。今では考えられませんが、あの頃は、成績上位者の名前を貼り出していました。上位者の中に、その友達の名前がありました。同じ小学校から入った私たちは、みんなびっくりしていました。その友達は、小学校のときには、それほど成績がよいほうではなかったからです。

その友達は、きっと、見返してやろう、やり直そう、生まれ変わろうと思ったのではないのでしょうか。その友達は、その後もずっと成績上位者でした。まわりの見る目も変わり、いじめはなくなりました。

中学卒業後は、私もその友達も同じ高校に進みました。しかし、同じクラスになることもなく、話す機会も減っていきました。親同士は交流があったため、私は自分の母親から、その友達のことを聞いていました。どこどこの大学に入った。就職した。そして、20代だったと思いますが、その友達の人生がうまくいかなくなりました。

そのことを聞いたとき、私は小学校のことを振り返っていました。あのいじめは、その友達の人生に影響があったはずです。いじめは、その人の人生を変えてしまうことがあります。私は、後悔しました。あのとき、私は一緒に帰っていたのです。学級委員長だったのです。何かできたはずです。時間を戻すことはできません。あのときに戻って謝ることもできないのです。

今の世の中では、いじめに関する法律が整備され、いじめの被害者を守るシステムになっています。いじめた方は、加害者となります。いじめられた側が、精神的な苦痛（くつう）を感じれば、いじめとなります。学校でも、それ以外でも、起こった場所に関係なく、いじめとなります。回数も関係ありません。いじめに対して、世の中が厳しくなっているわけです。

この2学期は、生徒会を中心に、いじめについて皆さんに考えてもらう機会をつくれればと考えています。いじめは他人事ではありません。自分事（じぶんごと）です。